

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	あかしあ園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 育桜福祉会
対象サービス	生活介護
事業所住所等	〒213-0034 川崎市高津区上作延938-1
設立年月日	平成5年4月1日
評価実施期間	平成26年 6月 ～ 平成26年12月
公表年月	平成26年12月
評価機関名	株式会社 学研データサービス
評価項目	川崎市指定評価項目
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
<p><< 施設の概要・特徴 >></p> <p>生活介護事業所「あかしあ園」は、川崎市高津区宮ノ下バス停から徒歩5分の、公園に面した閑静な住宅街にあります。川崎市内に多くの障害者施設や障害者グループホームを運営する社会福祉法人育桜福祉会が、平成5年4月に設立した定員35名の通所施設です。当園では、多くの重度障害者を受け入れており、平成26年9月現在の利用者数は37名で平均年齢は37.3歳です。</p> <p>法人の基本方針に「心の風景を自由に表現できるキャンパスの創造をめざす」ことを掲げています。法人の基本方針の実践に向けて、施設独自のスローガンを定めています。また、あかしあ園利用者支援方針に「職員は利用者の思いを尊重し支援を押し付けないこと」「職員は見て見ぬふりをしないで利用者を守るために見守ること」等を明文化し、職員に周知し利用者への日々の支援に努めています。</p> <p>利用者の意見を最大限に活かし施設運営に取り入れるために、利用者自治会(利用者自身が主体となり、季節行事などの企画の段階から参加して、内容を決定できるように組織された会)の取組の支援に力を入れています。また、利用者の作業活動でつくったクッキーなどを地域のバザー等で販売し、障害者と地域の人たちとの触れ合いを大切にしています。</p> <p><< 特によいと思う点 >></p> <p>○あかしあ園スローガン“利用者が主体となって活動します”“活動のプロセスを大切にします”を実践しています。</p> <p>利用者自治会は発足から3年目となり活発な活動を行っており、意見を述べることの体験も少しずつ身についてきました。特に食事や行事には関心が高く、食事部会と行事部会を作り利用者自身が運営することを施設が支援しています。利用者自身が意見をまとめ、家族や他の利用者へお便りを出すことを支援し、また、行事後のリアクションペーパーや自治会の会合での振り返りを支援しています。「あかしあ園スローガン」に沿い、支援者や施設の状況等を押し付けず利用者自身が選択し運営することで満足を得るよう支援しています。</p> <p>○利用者個々のペースを大切にし、考える時間や自分の表現方法を大切に「待つ支援」を実践しています。</p> <p>利用者に対しては、ホワイトボード等で視覚的な情報の提供を基本としています。言語でのコミュニケーションが困難な利用者が多いので、理解しやすく意思を表出しやすいよう写真やイラストでカードを作り、作業活動などでも常に見ることができるようになっています。利用者で判断しやすいように、また、日</p>	

課の流れを把握しやすいように工夫しています。職員は個別支援計画を念頭に置きながら利用者が主体的に行動できるよう支援しています。利用者個々のペースを大切に、支援が施設だけで完結すると考えず家庭での生活も視野に入れていきます。

○利用者は創作活動、作業活動に活発に取り組んでいます。

創作活動として絵画、貼絵、切り抜き、ステンシル、園芸など利用者は自分のやりたい活動で自己表現し、作品を施設内各所に展示し生活の中に楽しさや達成感を感じています。作業活動では、お古のストックキングを輪切りにし染色した上で編み込み、ガラスや革製品など何でも磨ける「みがき屋さん」を作り販売し好評です。また、クッキーやパウンドケーキなどは本格的で、地域のバザー等で販売し、お中元やお歳暮用としても好評です。他にも紙すきによるメッセージカードの作成など利用者は好みの活動を選択しています。

◀ さらなる改善が望まれる点 ▶

○サービスの標準化をすすめ、マニュアル等定期的な見直しの仕組みの整備が期待されます。

サービス支援の標準的な実施方法は個々のケースで実施されていますが、サービス内容の定期的見直しと利用者の高齢化等に伴う状況変化への随時対応については、課題があるようです。急激な利用者状況の変化に見過ごしがないように標準化の視点でのマニュアルの見直しが望まれます。サービスレベルの維持・向上の面からも、サービスにおける作業の標準化の方針を明文化し、作業マニュアルの定期的見直しと現場の職員への周知の仕組みの整備が期待されます。

○利用者の高齢化による状況変化への対応の一層の強化が期待されます。

利用者は加齢等の原因で能力や健康状態が低下している傾向にあります。利用者の病气、障害の進行、意欲後退、食形態の見直し等、サービス支援の絶対量が変化する中で、サービスレベルの維持・向上を図っていくことが求められます。今後ますます顕著になると思われる利用者の高齢化とそれに伴うサービス内容の変化に適切に対応するための、支援体制の整備が期待されます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重

日々の活動は毎朝希望を尋ね、やる気につながる活動を利用者が選択できるように支援しています。行事でもアンケートや聞き取りで希望に沿うようにしています。年度計画に固執せず、利用者の希望がなければ行事を中止することもあります。本人の意思を表現するために、言語コミュニケーションの困難さに対し、絵カードや写真を活用したり、利用者が雑誌等で写真などを指し示せるような環境の工夫をしています。利用者の答えを予想し表現が出るまで待つ姿勢で、自立を引き出すよう支援しています。自治会の開催では主体性を尊重し支援しています。

「個人情報保護規定」に基づき対応しています。外部とのやり取りや広報誌「あかしあ」への掲載などでは、その書類を添付して本人・家族に了解を取り同意のサインをもらっています。「利用者支援方針」に職員同士での見守りや見て見ぬふりはしないと明記しています。日常の支援の中でプライバシーへの配慮を必要とする場面は、職員同士が互いに注意するようにしています。

年齢を重ね支援ニーズも変わってきています。ゆっくり心身を休めることが必要な状況の利用者が落ち着ける空間や、ゆっくり相談できる環境、また集中して作業できる場などが必要になってきており、新規事業として近隣に分場を用意する取組をしています。利用者の意欲や気持ちに配慮した支援や環境作りを大切にしています。

<p>2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供</p>	<p>年に2回、個別支援計画の作成を行う際利用者の満足度も聞き取っています。利用者自身の意向と家族の意向に食い違いが生じる場合もあるので、まず利用者からの聞き取りを行っています。面談時には本人の意見や様子、家庭での状況、本人と家族のニーズを把握しています。利用者の言語コミュニケーションの困難さや家族の高齢化などで一律に満足度を図ることが難しく、日常的な要望への対応を通して把握しています。</p> <p>利用者自治会が活発になり、意見を述べることの体験も少しずつ身につけてきました。特に食事や行事には関心が高く食事部会と行事部会を作り、利用者自身が運営することを支援しています。利用者自身が意見をまとめ、家族や他の利用者へお便りを出すことを支援し、また、行事後のリアクションペーパーや自治会の会合での振り返りを支援しています。「あかしあ園スローガン」に沿い、支援者や施設の状況等を押付けず利用者自身が選択し運営することで満足を得るよう支援しています。</p> <p>ホワイトボード等で視覚的な情報の提供を基本としています。言語でのコミュニケーションが困難な利用者が多いので、理解しやすく意思を表出しやすいよう写真やイラストでカードを作り、作業活動などでも常に見ることができるようになっています。利用者で判断しやすいように、また、日課の流れを利用者が把握しやすいように工夫しています。職員は個別支援計画を念頭に置きながら利用者が主体的に行動できるよう支援しています。また参加した活動の回数をチェックし、利用者の傾向を分析し、個別支援計画との整合性を確認しています。</p>
<p>3.サービスマネジメントシステムの確立</p>	<p>サービスガイドを作成し、漢字には全てルビをふり、通園や生活援助のことなど写真やイラストを用いて利用者にわかりやすく説明しています。日中活動支援においては、連絡帳を活用し、本人や家族の思いや要望を把握し、利用者の不安やストレスの解消に努めています。自閉傾向の利用者には衝立等で仕切り、個別環境に配慮し、まわりの声などによるストレスの軽減を図っています。また、利用者記録を活用し、朝、夕のミーティングで、個々の利用者支援の情報共有を図っています。</p> <p>利用者の障害特性に応じて編成された班ごとに担当職員がケース記録や利用者ごとの特記事項の記録をもとに、個別支援計画案を作成し、個別支援会議で施設長、サービス管理責任者等検討し個別支援計画書を策定しています。年に2回、半期ごとに個別支援計画を見直ししています。班ごとにモニタリングの結果を「支援見直しのための記録表(モニタリング)」に記録し、利用者に説明し確認のサインをもらっています。サービス支援に関する利用者の視点、家族の視点、職員の視点を明記し次の個別支援計画に反映しています。</p> <p>「ヒヤリハット・事故発生と事後対応マニュアル」を作成し、3段階の事故報告レベルを明記し、対応体制を明確にしています。「感染症マニュアル」「ノロウィルス対応標準マニュアル」「衛生管理マニュアル」を作成し、利用者や職員の感染症予防に努めています。「あかしあ園危機対応マニュアル」を整備し、アレルギー食等個人ごとのリスクに応じた支援を心がけています。</p>
<p>4.地域との交流・連携</p>	<p>地域連携を推進しています。年2回広報誌「あかしあ」を発行し高津区内の役所や障害者施設周辺の福祉施設、町会役員等へ配布しています。隣接宅へは利用者が活動としてポストインしています。また12月の「わいわい祭り」では障害者福祉への理解を深めてもらうためにあかしあ園の活動を公開し、住民の方と交流を図</p>

	<p>ています。事業所周辺の美化活動を行うなど地域連携を図っています。また、6月には連携して防災シミュレーションも行いました。町会の夏祭りの福引券作りやほっぴの洗濯といった仕事の依頼も受けています。</p> <p>近隣に県立養護学校があり、卒業後の活動の場として検討されていることが多く、実習や見学実習も多く受けています。また進路が決まらない場合に実習体験もできる限り受け入れています。年に2回、卒業後の生活イメージについて講演し、また小学校が2校あり課外学習として見学の受け入れを積極的に行い、福祉の広報活動を担っています。</p> <p>単身高齢者や老夫婦世帯の増加により、地域とのつながりを保ちにくい現状があります。日中活動の中で高齢者の見回りや交流を検討したいと考えています。地域連携による防災シミュレーションへの参加や二次避難所としての地域ニーズに応えています。年に1回地域の企業等の代表者による会議に出席するなど、地域を支える、地域の一員であるという意識を持ってさまざまな地域交流の場に参加して地域福祉のニーズの把握に努めています。</p>
<p>5.運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>「どきどきとわくわくを提供します」「利用者が主体となって活動します」「活動のプロセスと成果を大切にします」の施設独自の職員スローガンを掲げ、また、あかしあ園利用者支援方針に、職員は利用者の思いを尊重し支援を押し付けないこと、利用者を守るために見て見ぬふりをする事なく、職員同士で利用者を見守ることなどを明記しています。毎年年度初めの全体職員会議で、スローガンや運営方針を職員に周知し、また月に一度家族会を開催し、施設の運営方針や事業内容及び施設運営の方向性等を説明しています。</p> <p>事業計画書に施設運営の中期的視点を明示しています。平成26年度の中期的視点に、利用者の障害状況、生活状況の変化に応じたサービス拡充を行うこと、職員の介護技術の向上を目指すこと、利用者自治会を中心とし、自己決定・自己選択を迫及した運営を行うこと等を設定しています。平成26年度事業計画の重点項目に、行事の企画運営に利用者もかわり、また、実施に際し利用者自治会の希望を受けて内容を検討することを明記しています。</p> <p>法人全体の取組として、毎年施設運営及びサービス内容の内部自主評価を実施しています。評価項目は人権の尊重、利用者本位・自立支援、個別支援計画関連等多岐に及びます。上期に評価結果の中間報告を実施し、年度ごとに評価結果を取りまとめしています。内部自主評価の結果をもとに課題を整理し改善策を明確にし、改善成果表を作成しています。改善策に対するこれまでの成果と今後の課題を明確にし、施設運営のサービス改善に活用しています。</p>
<p>6.職員の資質向上の促進</p>	<p>「利用者支援方針」を掲示して、支援の押し付けをせず、利用者の思いをくみ取れる、思いを尊重できる職員像を明確に職員に周知しています。また職員同士が互いの支援を見守り、見て見ぬふりをしないことも掲げ、職員の質の向上を目指しています。職員が自己改善を意識した行動ができるように人材育成に取り組んでいます。施設長と職員の面談で、研修受講等の実績を評価し、研修計画の見直しにつなげています。</p> <p>法人内研修は年間を通し、適時入職年次別、職種別、事業所別、雇用形態別の研修を実施しています。法人内研修のほか外部研修を実施しています。外部研修は、</p>

一人1回以上参加できるよう、研修情報を回覧し自主的な研修意向に沿っています。職員アンケートの結果をもとに個々の職員の希望に沿って外部研修の受講を支援しています。外部研修の報告書や資料を職員は自由に見ることができます。年2回全体報告会を開催し、受講者が他職員に研修の成果を伝えています。

有給休暇は週末休とつなげてより有効に活用でき、業務に支障が出ないような日中プログラムの担当職員の組み方を工夫しています。法人に衛生委員会があり、産業医と連携し、職員の心の健康作りを進めています。メンタルヘルス担当職員が「心の健康づくり及びメンタルヘルス推進担当者の役割について」の研修を受講し、職員の心の健康作りに力を入れています。利用者の加齢等で支援の増加が見られ、介助量も多くなっており職員への負担増が見込まれます。施設長は中堅の職員が少ない職員構成であることも職員への負担感につながると考え、課題ととらえています。